

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：53701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730849

研究課題名(和文)優れた世界史教育カリキュラムの特質および教授方法に関する調査的研究

研究課題名(英文) Study on teaching methods and the characteristics of excellent world history education

研究代表者

空 健太 (Sora, Kenta)

岐阜工業高等専門学校・その他部局等・講師

研究者番号：30548285

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、米国のAdvance Placement(以下、AP)世界史プログラムの分析を通して、優れた世界史教育を可能にする論理について考察した。AP世界史の教育内容は、世界史の膨大な内容を取捨選択優れた原理があることを明らかにした。さらに、AP世界史の実際の授業の調査を通して、教師が行うことが1年間の授業でどのような「方法」で扱うかに焦点化されていることであることを明らかにした。それゆえに、教師はいかにしてある時代の世界史を考察させるかという教授方法に焦点化することができる。授業担当者の役割の明確化が授業の成功要因と考えられる。このような特徴を有するAP世界史は一つの改革モデルになりうる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the characteristics of world history through global lens, analyzing "AP world history" program. Although understanding world history is increasingly important, its units or lessons often are difficult to conduct. How can we organize vast contents and integrate world history into a whole? First, both curriculum and examination are strongly consistent by using common framework. Secondly, periodization approach, themes and concepts, are the principle of selection of leaning content for global history. Finally, AP world history teacher's part in the main is limited to create one's instructional activities. AP World history curriculum equipped with these characteristics is one of reformation.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・カリキュラム構成・開発

キーワード：教科教育学 世界史教育 アドバンスド・プレイズメント アメリカ合衆国 教授方法 授業構成 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化が進展する現代世界において世界の歴史を理解することは責任ある市民にとってますます重要になっている。しかしながら、どのような世界史のカリキュラム(枠組み・授業・評価)が望ましいのかについてのコンセンサスは未だない。

(2) 2006年の世界史の未履修問題は、世界史学習が実践において魅力を失っていることを示した。世界史が特に問題になったのは、高等学校の地理歴史科の中で世界史が必修であったからであり、必修であることが受験以外に学ぶ意義を教師が提示できていないことを露呈した。

(3) 社会科教育研究は、実践に資することを最大の目標とする。そのためこれまで世界史授業の開発やカリキュラム論理の解明などが行われてきた。しかしながら、受験といった現実的な課題は捨象され、理論に重点を置いたものが多かった。現在求められるのは、現実の状況を踏まえ、実践可能性を担保した優れた世界史教育の改革案である。

2. 研究の目的

世界史教育はどのような目標でどのような内容をどのように教えるべきか。こうした問いに対する実践可能なレベルでの回答が求められている。本研究の目的は、教師がどのように優れた世界史教育の内容を開発するのか、その論理を明らかにすることである。

この課題に応える研究対象が米国のアドバンスド・プレースメント・プログラム(Advanced Placement Program)の世界史コース(以下、AP世界史と略記)である。APプログラムとは、米国の大学入試委員会(College Board)が提供するプログラムであり、中等学校の生徒に大学レベルの授業を受ける機会を与え試験の結果に基づいて大学入学後に単位を認定あるいは上級コースの受講許可を与えるものである。その特徴は大学レベルの内容が中等学校在学中の生徒に対して、中等学校の教師によって教えられるところにある。中等教育課程にAPコースを設置することは、大学進学の可能性を広げることであり、州政府や連邦政府の教育政策としても強化されており、APコースはアメリカの中等教育に広く浸透している。

本研究では、高校で大学レベルの講義を行うAP世界史を対象とし、実践の場で優れた世界史教育を可能にする論理を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、優れた世界史教育のひとつとして挙げられる米国のAPプログラムの世界史科目を対象に、カリキュラムのフレームワークの構造と特質を分析し、実際の授業現場における参与観察とインタビューを通して教

授方法の特質について明らかにする。College Boardが発行するAP世界史のコースの説明を分析することにより意図されたカリキュラムを明らかにする。また、授業現場の参与観察とインタビューによってAP世界史の実施したカリキュラムを分析する。そしてそれらを比較することを通して、実践レベルでどのように優れた世界史教育が生み出されるのかという論理を明らかにするという方法をとる。

4. 研究成果

研究成果は次の4点に整理できる。

(1) AP世界史の意図されたカリキュラムの特徴① - 世界史の教育内容の「深さ」と「広さ」への対処 -

AP科目の授業内容はCollege Boardが公表する科目ごとのコース・ディスクリプションに即して1年間のシラバスが設定され、授業が実施される。表1はAP世界史のコース・ディスクリプションで設定されている5つのコース・テーマ、表2は学習対象となる6つの歴史的な期間(Period)である。さらに表3に例示したように、各期間のテーマを具体化した教育内容がコンセプトとして示されている。

表1 AP世界史のコース・テーマ

1	人類と環境の間の相互作用
2	文化の発達と相互作用
3	国の建設・拡大・対立
4	経済システムの創造・拡大・相互作用
5	社会構造の発達と変化

表2 AP世界史の期間

期間	期間のタイトル	範囲
1	技術と環境の変化	B.C.E.600まで
2	人間の社会の組織化と再組織化	B.C.E.600 ~ C.E.600
3	リージョナルとトランスリージョナルな相互交流	C.E.600 ~ 1450
4	グローバルな相互交流	1450 ~ 1750
5	産業化とグローバルな統合	1750 ~ 1900
6	加速するグローバルな変化と再編成	1900 ~ 現在

表3 教育内容として提示されたコンセプト

・農業と牧畜が人間の社会を変質させ始めた。 C. 技術の確信は、農業生産、貿易、輸送における改良を導いた。 農業生産、貿易、輸送における改良の要求される例 ・製陶 ・犁 ・織布 ・冶金 ・車輪や車輪付きの乗り物
--

表1のテーマがAP世界史教育で行う探求

の領域であり、表2の歴史的な期間について探求していく。表3に例示したテーマを期間ごとに具体化したコンセプトが命題化され、階層化された教育内容として提示される。

このように、AP世界史では一貫したテーマと期間による教育内容の組織が行われている。この教育内容の組織化により、ある歴史的な期間がどのような特徴をもつものであるかを世界史全体の中で比較し、地域における時代を超えたつながりを認識させることができる。世界史教育が事柄の想起に陥らせてしまう原因ともいえる「広さ(breadth)」と「深さ(depth)」に対応するフレームワークとなっている。

(2) AP世界史の意図されたカリキュラムの特徴 - 教育内容の質的保証と多様性の担保 -

AP世界史は試験までを包含しているため、教育内容と試験が同じフレームワークで作成され、非常に一貫性の強いカリキュラムとなっている。図4に示したように、AP世界史は、非常に一貫性の強いカリキュラムという構造を有している。

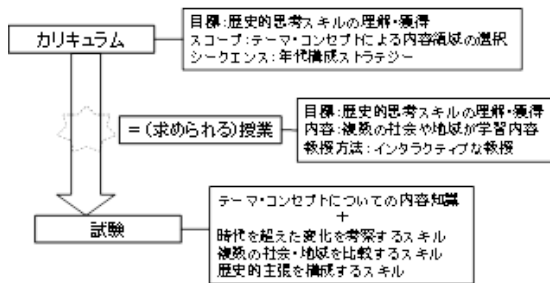


図1 AP世界史コースの構造

しかしながら、表4に示したように各教師によって作成された実際の授業運営のためのシラバスは例え同じ期間であっても多様性のあるものとなっており、テーマやコンセプトによる教育内容の選定は教師による授業作成の質を保障しつつ多様性を担保するものとなっている。

表4 期間3の単元における中心的な問い

調査した教師	不可欠な問い
Eric Vincent	・600年から1450年の間のコミュニケーションや交換のネットワークの増大の主要な原因と結果は何であったか？
Cohen Sharon	・文化的な領域 vs. 国を研究することの価値は何か？ ・この期間の変化は、遊牧民の移住の結果か
Bram Hubbell	・アフロユーラシアはこの期間になぜ統合されたのか？ ・アフロユーラシアの統合はこの地域内の社会にどのような影響したか？

(3) AP世界史の実践現場の特徴 - 多様な学習スタイルと多様な活動を中心とした授業展開 -

AP世界史を担当する3人の教師に協力していただき、AP世界史の実際の授業現場を調査した。インタビューから、AP世界史を「厳しい(strict)」コースだと共通して答えていた。それは、1年間で世界史を全て扱わねばならないという意味においてであった。日本でもそうであるが、世界史は他の社会系教科目に比較してその内容過多のために講義中心になりやすい。それでも、いずれの教師の授業も教師の説明で一方向的に進んでいくものではなく、必ず議論などの学習活動が組み込まれた学習スタイルとなっていた。

①Bram Hubbellの場合

私立学校でAP世界史を担当するBram Hubbellの授業は、スライドの提示と説明によって進行するものであり、日本の世界史でもよく見られるレクチャースタイルをとっていたが、発問・生徒の応答が非常に活発である。生徒の興味関心を引き出すために、多くの絵画資料を提示し、発問によって授業が進むところに特徴がある。また、議論が進みやすいように生徒の座席を教師を中心とした円形にするなどの工夫がみられた。

Cohen Sharon

公立学校でAP世界史を担当するCohen Sharonの授業は、写真や映画、自作のワークブック、史資料、地図、クイズなど多様な史資料を使用して進められるものであった。資料にもとづいた発問によって授業が展開し、生徒がグループで作業を行う活動が必ず組み込まれていた。そのために生徒の座席はグループごとの「島」のような形態をとっていた。

Eric Vincent

公立学校でAP世界史を担当するEric Vincentの授業は前二者とは異なり座席配置に特徴はないが、風刺画や論述を書かせることといった多様な学習活動を取り入れることによって、生徒の応答が活発な授業となっていた。とくに、文学の教師とのチームティーチングを行い、世界史と文学や芸術との関連性をもたせた授業を組織していた。

(4) なぜAP世界史は「優れた」コースか

AP世界史は通常の世界史よりも“Advanced”なものであり、大学進学後のクレジットになるという点などから、受講する生徒の学習意欲が高いことも当然AP世界史の授業が成功する要因と考えられる。そうした要因はあるものの、参観した3人の教員の授業はいずれも非常に活発に展開する優れた授業であったといえる。そこにはフレームワークによって標準化された教育内容の存在と教師の関わりが大きな要因として存在することが指摘できる。AP世界史は4-(1)(2)で述べた世界史教育者らによって作成された一貫性の強いカリキュラムを有している。

AP 世界史を担当する教師が行うことは、このような標準化された内容を授業でどのような「方法」で扱うかに焦点化されている。このようなカリキュラム作成者と授業担当者の役割の明確化が授業の成功要因と考えられる。

ただし、これは州ごとに異なる教育内容が可能となる米国にあって、国レベルで標準化する動きとなることも指摘できる。教師の役割の明確化の是非は注視すべき事柄であるが、ある程度標準化されたフレームワークのもとで各学校での教師が生徒に応じた教育方法を工夫してシラバスと授業計画を作成するという AP のシステムは優れたものといえる。とくに、世界史という幅広い内容を有する科目において優れた授業を成立させるものとなっていることが指摘できる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 空健太, グローバルな世界史教育のカリキュラムの構造 Advanced Placement 世界史の場合, 岐阜工業高等専門学校紀要, 査読有, 第 49 号, 2014 年, 1-9  
空健太, 世界史教育における史料の教材化の原理 米国 AP 世界史コース用教材の分析を通して, 岐阜工業高等専門学校紀要, 査読有, 第 48 号, 2013 年, 15-25

〔学会発表〕(計2件)

- ① 空健太, 「優れた」世界史教育とは何のために何をどのように教えるのか? 米国 AP 世界史におけるコースプランニングガイドの分析を通して, 第 24 回社会系教科教育学会(兵庫教育大学) 2013 年 2 月  
空健太, 米国における「優れた」世界史教育についての調査的研究(1) AP 世界史プログラムの特質と形態, 第 23 回社会系教科教育学会自由研究発表(兵庫教育大学) 2012 年 2 月

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

空 健太 (SORA, Kenta)

岐阜工業高等専門学校・一般科目(人文)・講師

研究者番号: 3 0 5 4 8 2 8 5